

Ⅱ. 学年通信を通しての総合人間科

高校2年学校通信「サバニ」から

槇本直子

【抄録】 学年団のティームティーチングである総合人間科の最大の課題は担当教師間の意思の疎通と一致である。一人一人の指導方法の個性を十分に活かしながらも同一歩調で同じ目標に向かって指導していかなければならない。生徒集団に、学習の目的をはっきりと自覚させ、学びの動機付けをするためにも、学年団の姿勢を明確に示す必要性は高い。1996年度高校2年学年団では毎週発行する学年通信の内容を、総合人間科を意識したものとし、学年テーマの定着に努めた。

【キーワード】 学年通信 ティーム・ティーチング 学年テーマ 総合学習 国際理解 人権 平和

1. はじめに

総合人間科初年度の実践の中で、一番大きな課題となったことは、学年ティーム・ティーチングの方法であった。共通の目標を持った授業計画を立案するためには、学年団の教官全員の意思の疎通を図ることが大切であり、この教科に対する認識や指導方針を十分に討議し、生徒に対してある程度一致した姿勢で臨まねばならない。初年度は学年会の時間がなかなか確保できず、合意の不徹底や指導方法の矛盾が生徒から指摘されることも一部あった。

1996年度高校2年では総合人間科二年次の実践にあたって、学年会の定例化と総合人間科の学年テーマ（「国際理解・人権・平和」沖縄の心から平和を学ぶ）を念頭においた学年通信を毎週1回発行することを合意した。学年担任団7人が自己の個性を出しつつ、大枠で一致して指導する一手段としての役割を学年通信が果たした。また、週1回の発行ということで、隔週土曜日2時間連続の総合人間科の連続性の問題がいくらか解消できた。

2. 学年テーマと学年通信

高校2年の総合人間科の学年テーマは「国際理解・人権・平和」であり、沖縄研究旅行を中心とした展開となる。そのため“沖縄”を意識して総合人間科のサブテーマ「命どう宝ー沖縄の心から平和を学ぶ」を掲げ、学年通信も「サバニ」（沖縄の丸木舟、海の彼方の神の住む楽園ニライカナイからサバニが至福を乗せてやってくるといわれる）と題した。

多くの学年で学年通信は試みられているが、行事

等の連絡や保護者とのつながり、生徒指導的な側面からの取り組みという色合いが濃い。これまでも高校2年の学年通信は「かりゆし」「ニライカナイ」など沖縄に関するタイトルがつけられ、沖縄学習を柱に生徒に情報を発信続けてきている。今回は総合人間科のスタートを機にこれをより発展させる形で、沖縄から視野を広げ、授業内で十分に取り上げることができない部分を補うことをめざした。

3. 内容

取り上げた題材は以下のようなものである。

- 1) 総合人間科の授業計画
 - ・学習の動機付けを図る
- 2) 総合人間科の授業報告
 - ・クラス単位の授業では、他クラスの状況を知らせ刺激を与える
 - ・自己評価や相互評価など生徒の生の声の紹介
 - ・担当教官の感想
- 3) 情報提供
 - ・本や映画の紹介
 - ・各種催し物
 - ・新聞記事から
 - ・生徒活動（生徒会、個人）の紹介
- 4) 行事から
 - ・憲法講演会、遠足などの感想や反省
- 5) エッセイ
 - ・担任団の自由エッセイ
 - ・学年テーマに関する特集

- No.1 2年のスタートに 沖縄報告
- No.2 新しい学年に(復学生の自己紹介 担任所感)
- No.3 総合人間科保護者アンケートから
- No.4 憲法記念日によせて(学年テーマについて)
連休に“沖縄”を読む (読書案内)
- No.5 教官エッセイ(生徒指導)
豊かな社会に育った君達へ
タバコ・ピアス・茶髪など
- No.6 憲法講演会から「おいで一緒に」
転校生からの便り
- No.7 カナダからの3人留学生のメッセージ
憲法講演会生徒感想文より
- No.8 遠足について
教官エッセイ「遊ぶ」(遊びと文化)
- No.9 情報 「文の甲子園」「ディベート大会」
教官エッセイ「季節はずれの桜の話」
- No.10 学び合い(総合人間科テーマ授業から)
教育実習生からメッセージ
- No.11 総合人間科 テーマ授業の自己評価から
教官エッセイ「現代ことば考(1)」
- No.12 総合人間科テーマ授業を終えて(1)
(担当教官からのコメント)
- No.13 沖縄忌 沖縄全戦没者追悼式平和宣言
総合人間科テーマ授業を終えて(2)
- No.14 「学びを学ぶ」(総合人間科予告)
教官エッセイ「現代ことば考(2)」
- No.15 「学びを学ぶ」教育学部特別講義から
特別講義生徒感想文(1)
- No.16 「学びを学ぶ」教育学部特別講義から
特別講義生徒感想文(2)
教官エッセイ「夏休みを迎えるにあたって」
- No.17 演劇鑑賞「奇蹟の人」
教官エッセイ「夏休みを迎えるにあたって」
映画「GAMA-月桃の花」
- No.18 旅行委員会「でいごのたより」によせて
教官エッセイ「夏休みを迎えるにあたって」
- No.19 2学期のスタート
生徒感想文(高校生ODA実体験プログラムに参加して)
- No.20 学校祭に向けて(生徒会エイサーの紹介)
教育実習生メッセージ
- No.21 沖縄基地縮小日米地位協定の住民投票から
教官エッセイ「2学期のはじめに」
- No.22 教官エッセイ「2学期のはじめに」
情報 芸術の秋(展覧会の紹介)
本の紹介(蝦夷地別件、命どう宝)
- No.23 学校祭に向けて(各クラスHR企画)
教官エッセイ「現代ことば考(3)」
- No.24 祭のあと 学校祭生徒感想文
- No.25 研究旅行に向けて(各係り活動状況)
ディベートのために(日本と沖縄)
- No.26 第1回ディベート「沖縄は独立すべきである」
各クラスのディベートノート
- No.27 研究旅行に向けて(生活上の注意)
教官エッセイ「中間テストを終えて」
- No.28 オキナワ・ウィーク
本の紹介(沖縄戦-ある母の記録
沖縄在住作家 池沢夏樹、灰谷健次郎)
- No.29 沖縄直前クイズ
教官エッセイ「ディベートに関わって」
旅行委員会(保護者会での説明報告)
- No.30 教官エッセイ「沖縄/光と紅型の色」
昨年の研究旅行研究集録から
- No.31 研究旅行を終えて
ディベートの自己評価より
教官エッセイ 特集「進路を決める(1)」
- No.32 公開授業を前に(沖縄研究発表会予定)
進路を考える(進路と職業アンケートから)
- No.33 人権週間によせて
教官エッセイ 特集「進路を決める(2)」
- No.34 学びの意味 総合人間科予告
教官エッセイ 特集「進路を決める(3)」
- No.35 総合人間科研究集録について
教官エッセイ 特集「進路を決める(4)」
- No.36 2学期の終わりに
教官エッセイ 特集「進路を決める(5)」
- No.37 あけましておめでとう
教官「年頭の一言」
- No.38 若い世代の声(新聞記事)
教官エッセイ 特集「進路を決める(6)」
- No.39 高校1年への研究旅行報告会について
教官エッセイ 特集「進路を決める(7)」
- No.40 総合人間科研究集録の作成について
- No.41 教官エッセイ
特集「国際理解・人権・平和によせて(1)」
- No.42 情報 JICA高校生エッセイコンテスト
発展途上国、国際協力を考える
特集「国際理解・人権・平和によせて(2)」
- No.43 総合人間科1年間の自己評価から
特集「国際理解・人権・平和によせて(3)」
- No.44 情報 中部の国公立大学ユニーク小論文
特集「国際理解・人権・平和によせて(4)」
- No.45 名古屋大学平和憲章について
特集「国際理解・人権・平和によせて(5)」
- No.46 総合人間科予告 ユネスコ世界寺子屋運動
生徒寄稿 「カンボジアを訪れて」

No.47 高校2年の終わりに
 (国際理解・人権・平和を求めて一年)
 ユネスコ憲章
 教官エッセイ「最後の授業によせて」

4. おわりに

● 年度当初の計画通り、毎週1回の学年会と学年通信が最後まで実施された。

学年教師団のティーム・ティーチングである総合人間科の一番の課題である担当教師間の意思の疎通や一致は、短時間でできるものではなく、何度となく指導計画や方法、評価の観点などについて論議を重ねていかなければならない。教師個人の価値観の違いや指導方法の多様性、個性をうまく融合させ、お互いに補いあうことができれば、ティーム・ティーチングの最大のメリットとなる。

● 学年通信では生徒と教師の総合人間科の授業評価やコメントを紹介し、この授業で何をめざすのかを機会あるごとに触れてきた。学年テーマに関する様々な情報(新聞記事、本や映画、催し物の紹介など)を載せ、自由な観点で学年団の教師のエッセイで生徒に語りかけた。その結果、高校1年時には、総合人間科の担当教官による指導の違いや一部の教師の否定的懐疑的な言動に、生徒から多くの不信感や批判、不満が寄せられたが、高校2年では、学年全体に共通の理解が得られた。学年同一歩調で取り組むべきことと、指導教官や生徒の個性で柔軟に取り組める部分が明確になり、ティーム・ティーチングであることがはっきりと生徒に提示できたといえる。

最後に編集担当者の編集後記でまとめにかえる。

一年前、滝口先生と二人で沖縄へ研究旅行の下見に出かけました。平和ガイドのメリーさんとお会いし打ち合わせをするなかで、喜納昌吉さんが話題にのぼり突然実際にライブハウスに出かけようということに…。(このことがきっかけとなり、初めて研究旅行の日程の中に音楽ライブが取り入れられることになったのですが)音楽に疎い私にとってこのライブは沖縄のパワーが直接体に響いてくるようで新鮮な体験でした。「サバニ」という言葉に出会ったのもこの時です。

● かって沖縄の先人たちは、小さなサバニを黒潮に漕ぎだし、遙か海の彼方まで旅をしていたといえます。平和を愛し、自然と共生する叡知を身につけて

いた“うるま”の人々の情け、思い、祈りが「サバニ」を通して蘇ってくる——喜納昌吉さんはこれを「サバニ・ピース・コネクション」として平和祈念イベントを提唱しました。国家・民族・文化・宗教・イデオロギーの枠を超えた一つの人類の弥勒世(みるくゆ)を創造するために、実際に小さな丸木船で2000キロ、沖縄から長崎、広島まで「黒潮 祈りの巡礼」を実行したといえます。

この一年の高校2年学年団は、「国際理解・人権・平和」を学年テーマに掲げて、総合人間科の授業や沖縄研究旅行に取り組んできました。一年という時間の流れのなかを、流されるのではなく自らの腕の力で流れを創っていく——そんな試みができたらと願ってきました。一人一人の小さな動きが全体として一つの大きな流れになっていく——そんな雰囲気生まれたらと考えてきました。「サバニ」は私たちが平和、国際理解、文化や思想のこれからの流れを創っていくのにふさわしい象徴のように感じたのです。

● 学年通信「サバニ」と総合人間科の授業計画「命どう宝—沖縄の心から平和を学ぶ」は、学年団のティームワークで、生徒たち一人一人にむけてともに学んでいこうという想いを発信を続けてきました。「学ぶことは楽しい」と感じる、「教科の学習だけが学びではない」と気づくこと、「すぐ隣にいる人がいろいろなことを考えている」こと知ること…。どれだけ想いが伝わったのか不安ですが、総合人間科の目的が、自分を知り周りとはコミュニケーションし自分を変革していくことならば、まず“隗より始めよ”、学年教師団から試みなければなりません。

● 編集担当者としては、勝手気ままに書かせていただいた上に、わがままな原稿依頼に文句もいわず、すばらしい文章を寄せて下さった学年団の先生方に深く感謝しています。特に、「進路を決める—私の場合」では個人的なことを語っていただき、生徒以上にこちらが感じることもありました。当初はもっと多くの生徒たちの声を紹介する予定でしたが、編集者の力量不足でできなかったことをお詫びします。

● 昨年度の「いのちのネットワーク」、今年度の「命どう宝」と総合人間科の2年間が過ぎました。いよいよ来年度は最終学年。これまでの学びが豊かに花開くことを願って、ペンを置きます。

1997年3月27日

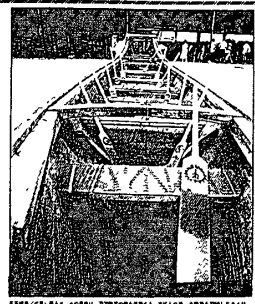
名大附高 高校2年 学年通信

サバニ

No. 1 1996. 4. 8

2年のスタートに

6日の入学式で新1年生を迎え1996年度がスタートしました。この1年は学校の中核学年として様々な面で皆さんの活躍が期待されています。気持ちを新たに責任と自覚を持ってちょっと成長した姿を見せてください。学年団の先生は学年代表として徳井先生をお迎えした他は昨年年度と同じメンバーですが担任と副担任が交代し攻守の要を要した編成となっています。また、総合人間科では研究部長の丸山先生が加わり学年のメンバーとしてともに学んでいきます。



学年団紹介

A組	大口 悦子 (数学α)	滝口 恵子 (美術)
B組	平松 良行 (英語R)	徳井 輝雄 (選択総合人間科)
C組	長谷川 弘 (古典)	横本 直子 (生物)

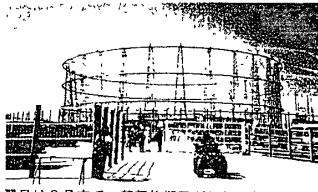
当面の日程

9日(火)	1限 合同HR (図書館)	2・3限 HR (学級写真撮影)
	4限 授業 (A, 英語G, B, 英語R, C, 日本史)	5・6限 新入生歓迎会 (体育館)
10日(水)	1限 数学テスト	2限 英語テスト
	3限~ 授業	尿検査
注)	12日まで特別時間割	
13日(土)	第2土曜 休み	
15日(月)	一斉委員会 (委員長選出)	
17日(水)	部・サークル加入締切	
18日(木)	生徒会執行委員長立合演説会 (6限)	
20日(土)	学年・学級保護者会 授業参観	

学年通信タイトル「サバニ」
毎年高2の学年通信のタイトルは沖繩にちなんだ命名がされています。サバニとは沖繩の丸木船のことです。海の彼方(ニライ・カナイ、昨年の高2学年通信のタイトル、神の住む楽園)からサバニが幸福を乗せてやって来ることをイメージして平和のメッセージを伝えている人たちがいます。私たちがもつメッセージを持って荒波に漂わだしていこうという気持ちでタイトルとしました。

沖中報 幸福 告 ~南の島から人を世界を平和を未来を考える~

春休み中に、滝口先生と研究旅行の下見に沖繩へ行ってきました。3月25日、ちょうど沖繩米軍用地の強制使用をめぐる代理署名訴訟の判決が出る日に沖繩入り。太田知事が代理署名を命じられるという判決を報道した号外を手に入れました。(このニュースは春休み中ずいぶん新聞紙上をにぎわしていたのですが目を通したでしょうか) 翌日は3月末で一部契約期限が切れる楚辺通信所(通称・象のオリ)がフェンスで囲まれる現場に行きあわせました。いきなり沖繩の現実を突きつけられ、これから学んでいかなければならないことの大ささを感じさせられました。これまでに2回沖繩研究旅行を経験しているのですが、現実を感じていることを肌で感じ、また新たな問題提起をされたような気がします。沖繩を学ぶことは過去の歴史から現在を、そして小さな島の日米関係から世界平和を考える一つの視点になるのでしょうか。



沖繩には様々な形で平和を訴えている人たちがいらっしゃいます。本校の研究旅行で毎年お世話になっている平和ガイドの椎崎メリーさん(下の写真前列中央)もそのお一人。常に学び続けている姿勢がとても印象的で、しっかりと現実を見つめるだけでなく行動する熱意も持っています。今回の打ち合わせでは、東京のある高校では修学旅行の日程に喜納昌吉さんのコンサートを取り入れたという話から、私達も彼のライブハウスに御一緒していただきました。(喜納昌吉&チャプルーズを知っていますか? 現代の沖繩音楽の旗手で「花」の作詞作曲家。アトランティックの公式文化イベントにアジア大陸の代表として招聘されています。)喜納昌吉さんは世界に沖繩の文化、芸能、平和の精神を音楽を通して発信。「サバニ・ピース・コネクション」というサバニに沖繩の心を乗せて黒潮2000キロを航海し、平和のメッセージを伝える試みもしています。その音楽は直接彼のメッセージが体に響いてくるようで、滝口先生も私も彼のファンとなりCDと本を買込み、サインをねだったりしてしっかりミーハーしてしまいました。

メリーさんは喜納さんと親しく、彼のお母さんと妹さん(チャプルーズのメンバー)にも紹介していただきお話を伺いとても楽しい時間を過ごしました。(写真はそのときのもの。メリーさんの両親が喜納さんのお母さんと妹さん)私達の研究旅行でも喜納さんのライブが可能にならないか検討中です。(ご意見をお寄せ下さい) どんな旅でも言えることですが、直接その土地で生活している人とのふれあいもとても印象的で勉強になります。昨年度もフィールドワークで多くのことを学びましたが、今年度の沖繩研究旅行でも実際にその土地 人に出会って学ぶことを楽しみにしたいものです。



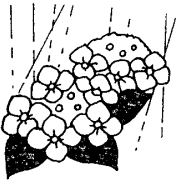
今年度の総合人間科では、「国際理解・平和・人権」をテーマに学習していきますが、そのメインイベントが研究旅行です。共に真剣に楽しく学んでいきましょう。
(横本 直子)
投稿募集、保護者や生徒の皆さんの声をお寄せ下さい。

名大附高 高校2年 学年通信

サバニ

No. 11 1996/6/13

梅雨に入り、寒かったり蒸し暑かったりと体調を崩しやすい季節になりました。健康管理には十分配慮して気持ちだけは晴れ晴れと過ごしましょう。教育実習もあと3日。今日、明日は研究授業も多く大勢の方が教室を覗くこととなります。環境整備も怠りなく。教育実習生だけでなく、皆さんも総合人間科のテーマ授業で授業をする側を体験していますが、自分が理解することとそれを人にきちんと伝えて理解してもらうことではずいぶん違いがあります。たった30分のグループでの授業ですが、その難しさを感じているのではないのでしょうか。又、クラスの人達がきちんと聞いてくれると励まされて良い授業ができます。実習生の研究授業でも「聞く姿勢」を見せて下さい。



説得力のある授業をするには、まず自分自身が真剣にそのテーマについて考え、自分なりの意見を持つことも必要です。グループの中で意見を闘わせ、全体の場ではいろいろな考え方や問題を提唱して、みんなで考えていけると素晴らしい授業になりますね。前回はそういった授業があり、次回が楽しみです。

前回の総合人間科のテーマ授業の自己評価・相互評価をまとめています。後日全体の結果はお知らせしますが、今度の2回目のテーマ授業の参考に授業を担当した人達の自己評価を紹介します。授業が終わってほっとしたせいか、何も書いていない人が大勢でしたが、きちんと自己評価をすることが大切です。学んだことをたえずフィードバックしてしっかりと自分の心の糧としていきましょう。

- 授業担当者の自己評価から
- ・OHPを使って正解だったと思う。アンケートも有効的に使えた。
 - ・きちんと予定通りにできたが、早く終わってしまった。最後にまとめれば良かった。
 - ・時間が余ってしまった。全体を通してのリハーサルをやるべきだった。授業で難しい! 勉強になった。(A組, 民族班)
 - ・水流君が良くやってくれた。一つ言うのを忘れてしまった。(A組, 国際理解班)
 - ・時間配分ができていなかった。
 - ・自分はなかなかよかったと思うが、時間がなかった。
 - ・話が多くて寝てる人がいたから、もっと手短かに話すべきだったと思う。
 - ・さまになっていたかも。(B組, 平和班)
 - ・一方的に話すぎた。どもった。
 - ・まじめに取り組んだ点に関してはただ環境保護を訴えるだけだったり、本当には存在しない人権を笑いや言葉で飾ったりするよりしっかりと書いていたと断言できる。
 - ・プリントはしっかり作ったがそれに対する説明の不備が目立った。沖繩戦に関しては皆うんざりだったようだし、安部も同じ。米軍基地にしても早口でまくしたてたため要点が聞いた人の頭にきちんと入らなかったかも知れない。
 - ・よく調べた。
 - ・台詞は聞いておいた方が良かった。原稿の不備。
 - ・プリントは早く渡した方が良かった。
 - ・三段構成は良かった。
 - ・質問があんなにたくさん出るとは思っていなかったので驚いた。ちょっと勉強不足だったかな?
 - ・周りの人に「いい発表だったね」って言われてうれしかった。本問の司会がとても良かったんじゃないかな? 私自身は発表しなかったけど他の人の発表も良かったし、明るい雰囲気でもできて良かったと思う。
 - ・一正の質問に答えきれなかった。ゴメンね。
 - ・もっと詳しく調べべきだった。
 - ・声が大きく出て良かったし、比較的ゆっくりと話せたと思う。しかし少し時間がかりすぎた。プレゼンターの人との息が合わなかった。
 - ・司会の力量で何とか乗り切ったという感じがした。
 - ・少しは楽しかったかな? 知識をあまり身につけていないことを反省。
 - ・楽しくできて良かった。質問もいっぱい出たし。(C組, 自然班)
 - ・自分では一応せいっぱいやったつもりです。客観的に自分を見る事はできないので授業を聞いた皆がどんな気持ちになったか不安です。(少しでも感銘を受けてくれたら、この上ない幸せです。)どうなのでしょう。
 - ・自然班の後ということがかなり抵抗があった。
 - ・断もって用意した紙をだしたすら読んだだけでそれ以上のことは何もできなかった。もう二度とこんなことはやりたくないです。
 - ・時間配分がうまくいったかな? 研究発表みたいだった。うまくまとめられなかった。
 - ・黙々と原稿を読んでいた。訴え方が良かったかな?(C組, 人権班)

ピンクい・みどりい 現代ことば考(1)

教育実習生の授業中、オヤツと思うことばに出くわした。歴史地図で桃色で塗られたイギリスの植民地を「このピンクいところ」と説明したのである。私は「ピンクのところ」と聞き間違えたかな? と思っていた。授業後、本人に確かめたら確かに「ピンクい」だった。「みどりい」も一般化しているらしい。

以前、「むずい」を聞いたことがある。どがむずかゆいのか、蚊でもいるかと心配した。

そのうちに「うつい」(美しいの略)とか「やかい」(やかましい)に変化していくことだろう。全くばかい(ばかばかしい)ことだ。

ここで問題です。次の会話文の中で、用例として誤っている箇所を指摘し、訂正して下さい。

- 1 このラーメンすごうまいよ。
- 2 あのドラマ、全然おもしろいからつづきが楽しみだね。
- 3 的を得た大変いい発言だった。

解答は国語の先生まで。出題は丸山でした。



学校祭に向けて

玄関前に学校祭まで後00日の看板が立ち、校舎にテーマの垂れ幕が掲げられ、放課後の教室には準備の音が響くようになってきました。各クラス趣向を凝らした高校文化を表現してくれること楽しみにしています。

下の新聞記事は8月5日の読売新聞のものです。執行部の人達は、学校祭を盛り上げようと何度も豊田まで通い件を流してきました。学校祭の主役はあなた達自身。自分の手で形あるものを生み出してください。『そうともそれが青春だ！』をぜひ実感して下さい。

名大附属高校の「エイサー」は、伝統行事として知られていますが、近年は、海外からの観光客も増え、人気を博しています。この「エイサー」は、沖縄の文化を伝える重要な役割を果たしています。...

エイサー 新聞記事にあるようにエイサーとは沖縄の盆踊り・旧盆の送り火の行事です。若者達が太鼓を打ち鳴らして踊りながら、...

豊田沖縄ふれあいエイサー祭 9月8日(日) 午後3時～6時 上郷コミュニティセンター(愛知現状鉄道上期駅北) 図書横構にちらし掲示



息子たちのエイサー楽しみ

だこの息子、四田は、自衛隊に入隊した。自衛隊に入隊した息子は、自衛隊の文化祭で、自衛隊のエイサーを披露する。...

高校生ODA実体験プログラムに参加して

(今井 朋子) 私は、昨年授業の中で「青年海外協力隊の活動」というテーマのもと、JICAさんを訪問させて頂きました。その中で、今まで知らなかった「ODA - Official Development Assistance - (政府開発援助)」という言葉に出会いました。...

今回の三日間のプログラムは、とても有意義なものでした。普段の生活や学校ではとても体験できなかったことができたし、教科書では学べないものでも考えることができた。...

もう一つ印象に残っているのは「パングラデューを教える方法」でたいへん考えさせられた。僕は、「教える」ということは何なのだろうか。金持の国になれば考えられているとは思っていましたが、他人の考えを聞くのも面白いのだと思いました。...

2学期のはじめに 沖 縄 へ

2学期最初の学年通信を先月24日の「朝まで生テレビ」沖縄の怒りと日米安保のビデオを見ながら書いています。沖縄では9月8日には米軍基地の整理縮小と日米地位協定見直しの是非を問う県民投票を控えており(4・5日には選挙権のない高校生を対象に同じ投票を実施する計画もあるようです)、マスコミでも沖縄問題は大きく取り上げられています。...

沖 縄 へ ... あと5日

先日5日(火)の学年保護者会では、約80名の参加者を得て旅行委員会による研究旅行説明会が持たれました。皆さんの代表として旅行目的と日程、それに向けての事前学習について紹介しました。



11月 サウキヒの風景 麓地に聞く

沖 縄 直 前 ク イ ズ

- 1) 右の地図に次あげる場所の位置を記入しましょう。 ①那覇 ②豊後村 ③読谷村 ④首里城 ⑤アブラガマ ⑥嘉数高地 ⑦摩文仁の丘 ⑧首里武碑 ⑨嘉手納基地 ⑩普天間飛行場 2) 上の①～⑩に読みがなをつけましょう。 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 3) 全国の米軍基地(専用施設)の何%が沖縄にあるのか。 4) 沖縄戦戦没者の総数は何人ほどか。

本日、研究旅行のしおりが配布され、いよいよ本番目前。秒読み段階になってきました。今、この時点で行き先についてどれほど理解しているでしょうか。ただ「ついてい」と言うのではなく、しっかりとコースを頭にいれ積極的に疑問点は問いつけていきましょう。

ディベート準備に關わって・最近、感じていること。

沖口 昨年から太平洋戦争終結50周年と云う節目に向け作りと、たくさんの団体色々々イベントを打って賑やかつた。ちよつと我々もこの時期、沖縄学習を4月にスタートした。この節目をどんな節目にしたいのか、どんな意味があるのか、今後どうしたいのか、自分自身も整理がつきません。...

ディベート準備に關わって・最近、感じていること。

沖口 昨年から太平洋戦争終結50周年と云う節目に向け作りと、たくさんの団体色々々イベントを打って賑やかつた。ちよつと我々もこの時期、沖縄学習を4月にスタートした。この節目をどんな節目にしたいのか、どんな意味があるのか、今後どうしたいのか、自分自身も整理がつきません。...

研究旅行を終えて

3人の担任のうち、長谷川先生と大口先生の2人を欠く、という非常事態(?)。そのうえ台風も接近中というニュースが入り、ちゃんと沖縄へ行くのかと大きな不安を抱いての出発。しかし、前日のパニックは嘘のように無事研究旅行は全行程をこなし終了しました。全員事故もなく帰ってこれたことにほっとしています。

様々な人との出会いがあり、直接心の真ん中に響いてくるようなお話も多く聞くことができました。思つて暇のないような感動の嵐の4日間だったのではないのでしょうか。奮物を読むだけでは分からない生きた知識を少しでも手にできたら大きな収穫です。自分が何も知らなかった、もっと学ぶことがたくさんあるんだということが発見できた人はもっと大きな収穫を得たのかも知れません。沖縄で見聞したこと考えたことをぜひ周囲の人へ伝えてほしいのです。

国際的な視野を身につける第一歩は歴史認識だと言った人がいますが、自分の国の歴史や文化、風土を理解し、さらに異なる歴史文化を知り理解しようとする事で平和な国際関係が築けるのかも知れません。先日のディベート「沖縄は独立すべきである、是か非か」の問題を再度思い起こしています。これから研究旅行のまとめに入りますが、学が楽しさを突感してほしい。



公開授業を前に

明日の総合人間科の沖縄研究旅行/グループワーク研究発表会は公開授業です。

これまで高2の総合人間科では「国際理解・平和・人権」を大テーマに、「命どう宝一沖繩の心から平和を学ぶ」をスローガンとして授業に取り組んできました。昨年は自分自身の興味関心を振り起こし社会的意識を高めることで自己発見・問題発見の機会を持ち、調査研究の方法を身につけることをめざす個人研究をしてきました。今年はその経験の上に、発表・討論する力、まとめ伝達する力を高めようということで、生徒グループによるテーマ授業やディベートを試みました。さらに昨年に続きフィールドワークを(今回は遠く沖縄の地で)行い、明日の公開授業を迎えます。昨年と違って個人ではなくグループワーク。メンバーが意思の疎通を図り、協力して「学び合う」場面を期待しています。テーマ授業やディベートで仲間と議論しながら考えを深め、授業や意見を構築していくことを学んでいます。自分の考えを人に伝えることやみんなの意見をまとめることの難しさを感じている人もいますが、一つずつ経験を積んでいくこと仲間から学ぶことで豊かなコミュニケーション能力が育っていきます。皆さんの発表を楽しみにしています。



小さい島の大きな自然

先週の合同L.T.を機会に自分の進路に対して真剣に考え出しているでしょうか。昨年の高校3年生が4月に実施した進路と職業についてのアンケートの結果の一部を紹介します。あなたは?

進路

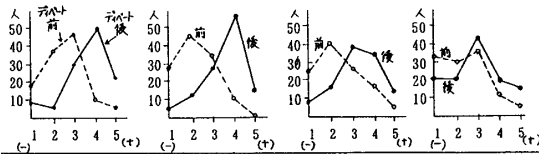
進学の理由は何か?		生活スタイルで共感できるもの	
資格の取得	17%	社会のために役立つ	35%
就職に有利	6%	社会的に偉くなりたい	7%
教養や視野の拡大	17%	自分のことは考えず	54%
専門知識や技術の習得	28%	企業の発展に尽くす	2%
楽しい学生生活や課外活動	11%	経済的に豊かな生活	88%
学歴がないと将来困りそう	5%	楽しい生活	88%
このまま社会に出るのは不安	2%	自分の能力を試す	62%
		別にこれという目的なく	14%
		のんきに	12%
		世の中に背を向けても	12%
		自分なりに	12%

進路決定、職業選択についての重要な要因

その職業の社会的意義	24%	身の回りにいる人の影響	15%
その職業の収入の高さ	24%	テレビや映画の影響	15%
自分の能力、学力との関係	45%	仕事が楽しそう	27%
自分の個性、性格との関係	64%		
自分の興味、関心との関係	80%		
親の意見	15%		

＜ディベートの自己評価より＞

①沖縄問題に関する意見 ②沖縄問題に関する理解度 ③沖縄問題に関する意見 ④ディベートに興味関心



ディベートの準備について

	(-)	1	2	3	4	5	(+)
準備をしたか?		15	23	24	37	14	
班で仲間や友人と議論したか?		8	21	25	34	20	
奮物や資料を読んだか?		11	25	29	30	17	

学びの意味

先日の公開授業では、研究旅行のグループワークが様々な形で報告されました。B組の授業を参観された文部省の方も興味を持って発表に耳を傾けられたようです。昨年よりもプレゼンテーションの能力が高まったとの評価も受けました。テーマ授業、ディベートについてのクラスの仲間の前で話すのも3回目。経験を積むことで自然体で自分の考えを表現できるようになれるといいですね。



今年の総合人間科の活動はグループでディスカッションを重ねながら進めていく形態です。学年テーマの「国際理解・人権・平和」はどれも人と人とのつながりの中で考えていかねばならない問題です。対立したり、共感したり、刺激を与え合ったり、より深く、より広く問題をとらえていくのが「学び合い」の醍醐味です。失敗を恐れろを閉ざしては、争いを避けて安易に相手に迎合しては成長は期待できないです。生身の人間がぶつかりあって初めて生まれてくるものもあるでしょう。そして理解し合うコミュニケーションの基本が「ことば」。相手を尊重し言葉を大切に、これまでのグループでの研究過程でお互いが励まし合い切磋琢磨する「学びのネットワーク」を築こう。

差別のない明るい社会をつくるためには、相手のことを個性を持った一人の人間として認めることが大切です。偏見にまどわされず、偏見に気づくためあつては、さつと、さつと、理解しあえるはずですよ。

人間関係の改善に、あなたも人権についてじっくり考えてみてください。

12月4日(土) → 10日(金)
人権週間

- 子どもの人権を守る
- 国際化時代にふさわしい人権意識を育てよう
- 国際理解を深めよう
- 女性の地位を高めよう
- 障害者の完全参加と平等を実現しよう
- 高齢者の住みやすい社会を築こう

人権週間によせて

1948年12月10日、国際連合の第3回総会で「世界人権宣言」- Universal Declaration of Human Right-が成立しました。この宣言を記念して毎年12月10日人権デーとし、先立つ1週間に毎年いくつかの催しが開かれます。

一学期のテーマ授業で「人権」については学んできましたが、一人一人の問題としてとらえられているでしょうか。基本的人権とは、すべての人間が人間である限りにおいて持っている権利。誰から与えられたものではなく、国家や憲法に先立って存在する自然権です。人間を見つめる真摯な態度、相手の身になって考えられる優しさ。社会から偏見や差別意識を一掃するには一人一人の心がけが大切です。生命・自由・幸福追求など自由権の基本権と並んで労働権や経済的社会的文化的生存権も含めて人権侵害は許されません。

2学期の終わりに

1996年もあと僅かになりました。2学期の授業も今日が最後で明日は終業式です。毎年この時期になるとマスコミでは一年の10大ニュースなどが取り沙汰されますが、あなたにとってのこの一年の重大ニュースは何だったでしょうか。突如多い高校2年生時代であってほしいと思います。学年通信では進路を考える大切な時期にさしかかっているということで、多少の参考にと各先生に体験談を寄せてもらっています。自問自答しながら自分なりの進む道を暗中模索するのが青春時代。多に悩み、前向きな進路を選択して下さい。



- ルソーは人間の発達を次の5段階に分けています。
- ①5歳まで・動物の段階(行動が快楽と苦痛の感情によって支配される)
 - ②12歳まで・野性人の段階(遊び、スポーツ、ゲームなどの体験を通して自我意識と記憶が発達する)
 - ③15歳まで・知性の段階(「自分」という意識が目覚め、思慮と知能が発達してたくましい探求心が生まれる)
 - ④20~22歳まで・社会的・感情的成熟の段階(人間的な感情が成熟して、自己が確立され、社会と接触しようとする試みがなされる)
 - ⑤25歳まで・完成の段階(社会的人間として統一的人格が完成する)
- 社会的・感情的成熟を目指して、冬休みはじっくり自分を見つめ新たな飛躍への充電期間としましょう。「今」は、将来の夢や理想を思い描くことができる明るく楽しい時期であると同時に、自信をなくして絶望したり、不安や孤独に悩み、希望と失望が入り交じって激しく揺れ動く時期です。子どもの時代に別れを告げて、独立と責任に生きる大人へと成長していきましょう。

連絡各、グループワーク原稿本日締切。指導教育へ提出。書けていない班は居残り!

- 青春群像 (学級日誌から)
- 12月9日 テストが終わってもうすぐ冬休み。やる気がなくなる時だけ授業をちゃんと受けようと思う。テストの点が悪くしても気分が落ち込んでいます。もうすぐ3年生なのでもっと頑張ろうと思います。
 - 12月11日 塩野七生さんの「コンスタンチノープルの陥落」を読む。昨夜読んでたら泣いてしまった。(バカじゃないよ) 人間ははかないけれど大切なもののために死ぬのなら良い。マホメッド二世はかっこいい! トルコは強い。
 - 12月16日 日本がクウェートに負けたことは大変いいことだ(サッカー)。なぜか。W杯予選に因に乗って跳まないからだ。優勝してもW杯に出ないの意味ないから、究の緒を締めてがんばってほしい。
 - 12月17日 最近あったかいい、最近暇だな、ということと昨日夕方に部活に行っただけ、やっぱり下手になって悲しかった。最近、時間の使い方が下手になった気がする。何か、見つけたいなあ。
 - 12月17日 最近登校途中、栄の瀬戸電出口の階段で人混みを見ていると、本当に人間がゴミに見えてくる。自分がゴミの一部だと思うと倒れそうになる。

サバニ

No. 46
1997/3/14

高校2年最後の総合人間科 「国際理解・人権・平和」を求めて

3月15日の高校2年最後の総合人間科では、UNESCO(ユネスコ)国際連合教育科学文化機関「世界寺子屋運動」について講師をお招きしてお話を伺います。この運動に携わっているPTAの安達節子さんと高2Aの仁美さんにも加わっていただきとても有意義な時間を過ごせそうです。今年度の学校祭のバザーなどの収益金が、この寺子屋運動に寄付されていることは執行部報でみなさん知っていると思います。世界で文字の読み書きができない人が9億4800万人、そのうちアジアの人が71%を占めるといいます。私達のすぐ隣の現実を知り、学ぶ場が与えられていることを今一度考える良い機会になるのではないのでしょうか。



カンボジアを訪れて

A組 安達 仁美
私は、冬休みを利用して日本ユネスコ協会連盟が主催する「ユネスコ・世界寺子屋運動スタディツアー」に参加し、カンボジアまで行って来ました。世界文化遺産であるアンコールワットや、寺子屋(離字教室)を訪ね、現地の人と交流すると共に、内戦が終ったカンボジアの現状を見てきました。私は前々から発展途上国に対する援助活動に興味を持っていました。しかし、ただ興味を持っていただけで、実際に行動に出たことはありませんでした。TVや新聞で途上国のニュースをみると、「助けてあげたい」とは思ってもなかなか体が動かない、結局何もしないままに終わっていました。私は「ただ、貧しい生活を送っている人、同情しているだけにすぎないのではないかな?」と自分の考えに疑問を感じ、ぜひ一度、発展途上国と呼ばれている国に行ってみようと思うようになりました。実際にその国の人々と交流したら、単なる同情ではなく愛情を持って真剣に途上国の発展を望めるのではないかと考えたのです。そこで、スタディツアーのことを知り、応募し、運よく参加できることになりました。私は一度も日本以外の国へ行ったことがありませんでした。カンボジアが初めての海外旅行です。カルチャーショックの連続でした。カンボジアはPKOでも知られているように、長く続



いた内戦が終わり現在、その戦後処理に終わっている国です。その1つに地雷があります。カンボジアは首都であるプノンペンには地雷が無く、手や足を無くした人が大勢いました。両足を無くして地面に手を叩いてはっている人もいました。両手両足を無く物乞いをしてる男の子、正直言ってもてとてと味の悪い光景に出ると物乞いをしてる人たちがすがすがしい目をして手を差し出してくれます。しかし1人の人だけ特別扱いするわけにはいかないので、結局見て見ないふりをしなければならぬ、とてもつらかったです。今まで広島や沖縄で戦争について、いろいろ見たり聞いたりしてきたのに、こんなに生々しく戦争の残酷さを感じたのは初めてでした。物乞いをする人を今後どう保護していくかもカンボジアが発展するための課題の1つです。



識字率のひくい発展途上国に対して、「世界寺子屋運動」という運動をUNESCO(国際連合教育科学文化機関)がすすめ、各国に寺子屋(離字教室)を作っています。カンボジアはポル・ポト政権時代に大量虐殺があり、知識人のほとんどが殺され、教師の資格を持った人の4分の3がなくなりました。そのためカンボジアの識字率はたったの30%にしかすぎません。私たちはカンボジアの寺子屋を4箇所訪問し、寺子屋に通う生徒たちと交流しました。上の写真はその中の一つ、ウドンの寺子屋のもので、ウドンでは私たちがのために歓迎会を開いて下さり、一緒にフルーツを食べたり、民俗舞踊を踊ったりしました。ツアーの中で1番印象に残っている所です。日本から持ってきた折紙で鶴の折り方を教えたり、写真を見せたり、地球の形をした紙風船でお互いの国の位置を指し合ったり、言葉が通じなくても交流できるのか心配でしたが、辞書片手の発音の悪いクメール語を熱心に聞いてくれたり、身ぶり手ぶりで大体のことは伝わったので、思っていた以上に深い交流ができました。学校(寺子屋)に来ていちばん楽しいことは何ですか?と質問すると「勉強できることがいちばん楽しいです。楽しんでいました。日本の授業風景と大きく違いを感じました。今週の土曜日の総合人間科の時間に少しだけカンボジアの紹介をするつもりです。多岐にわたるカンボジアの危険」というイメージを告げられたらいいです。懸命に働く人たちのことと努力している人たちのこと。そして、カンボジアには明るい未来があるように、報じられることが不安です。報告できるか不安です。報告したい。よろしくお願ひします。



最後の授業に寄せて

サバニ

No. 47
1997/3/19

「国際理解・人権・平和」を求めて一年

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の芽を蒔かなければならない。」

先日の総合人間科の最終講義は、学年テーマにふさわしい内容で、この一年の締めくくりができたことを講師の方達に深く感謝したいと思います。冒頭に掲げたのは、寺尾さんのお話の中で触れられたユネスコ意章の言葉です。(ユネスコの前文をインターネットで出しましたので、裏面に紹介します。) 自分の心の中を見つめることの大切さを改めて感じさせられました。自分の人権と同じように他の人権を認めること一簡単そうでなかなか難しい。多様な価値観の存在を認め、自分の好悪や利害にとわかれずに多角的に考え正しい判断のできる公正さを身につけたいものです。これは、この一年、学んできたことでもあります。何もインドやカンボジアへ行けなくても、すぐ隣の人の間でも国際理解や平和の行動の第一歩は始まるのです。(でも、インドやカンボジア、行ってみたいですね。一度自分で考えている世界をひっくり返されるのも興味深い。)

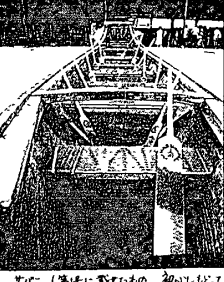
安達さんの「寺子屋に通う子ども達が「勉強できることが一番嬉しい」と答えていたことが、日本の学校と違う。」という言葉もちょっとショックでした。いったい私たちは学ぶことの喜びをどこに忘れてしまったのでしょうか。少しでも喜びを思い出しているでしょうか。世界のさまざまな国を思い描く2時間でした。

ところで、以前この学年通信で紹介した「高校生エイゼンコンテスト」(サバニ42号)を覚えてますか? 国際協力を考えてモロコシ・フィリピンへ行くというものです。寺尾さんや安達さん親子の話も聞いて、「私もちょっと世界を考えてみよう、見てみたい」と思った人はチャンスはいくらでもあります。高校2年の締めくくりとして思いの丈を原稿用紙4枚以内で綴ってみて? もう何人が書いてみようかなと思っっているようです。募集要項と原稿用紙は教室の机の上にありますので自由に持って行ってください。締め切りは5月ですので春休みの小論文の勉強としてチャレンジしてみませんか?

高校2年の終わりに

「集団生活で人間が分かる」
「人間関係を学んだ。お互いに啓発し合う一年間だったね。」
「これを来年度の活動に生かそう。」
これは、先日研究発表の編集会議で編集後記のために座談会らしきものを行ったときの委員からの言葉です。(編集後記では、この一年間の総合人間科の時間を振り返っています。ぜひ目を通して下さい。)

昨年と異なって、個人ではなく周りの仲間との学び合いが多く展開されました。自分を知るには他人からの視点が有効です。信頼される存在だったでしょうか。ちょっと成長した部分と多くの課題を抱えているのを感じませんか? 学び続ける姿勢を大切に。



サバニ(第1号)発行時の様子

丸山 豊
ユネスコの求める平和について 寺尾明人さん(ユネスコ事務局)
「ハーブ、ハクソーシ」覚えてますか。私のメモによると「ご主人、お悪みください」とあります。その日を生きることに精一杯のインドの子どもたちを目の前にして「どこかおかしいのではないかと」思ったそうです。誰もそこまでは思わぬでしょう。そこから一歩踏み出す人生を選択していったのが寺尾さんでした。

「世界が豊かになるように世界を変えていく仕事」に就きたいと考えユネスコに自分の生きる道を託したと語る寺尾さんは輝いていましたね。

カンボジアを訪れて 安達仁美さん(高2B)
高2最後の総合人間科の授業にふさわしい中身でした。私たちは「国際理解・人権・平和」について沖縄を通してこの一年それぞれ学んできました。それも仲間どうしで。

「世界は広い」「しゃべられなくても気持ちを通ずるもの」「国際理解から国際交流へ」寺尾さんの訴えたこと。安達さんは自分の目でこれら全てをカンボジアで体験したんですね。

地雷の犠牲者
ポルポト政権下の虐殺
寺子屋で学ぶ子どもたち
世界遺産のアンコールワット
「ショックの連続でした」と安達さんは語ってくれました。余りの大きな問題に途方に暮れることなしに、自分にできることを考えた末「私の体験をみんなに伝えること」を選んだのです。

私自身学ぶところが多くありました。そんな彼女の行動力です。カンボジアを単に問題意識、そして自分の体験を本日(3月15日)高2の仲間に伝えたこと。どう?

もう一つ仲間を一人でも理解していくことが世界の平和を創り出す力につながる ユネスコの夢だったことを学べました。

学ぶことの喜びを分かち合うために 安達節子さん(高2保護者)
彼のおかあさん(安達節子さん)の手作りのインドのお菓子 失礼ながら忘れました。甘い驚き味の味は、寺子屋運動でディスカッションしながら自立的に学ぶ子どものたくましさを感じてくださるでしょう。

もう一つ付け加えておきます。安達節子さんと仁美さんはユネスコを通して同じ方向に歩んでいらっしゃることを、大変うれしく思います。

サバニこの号で最終です。長い間ご愛読(?) ありがとうございます。かなり編集担当者の独断と趣味が入ってしまいましたが、気持ちいい(?) 紙面に向かっています。個人的にはこの一年間をみなさんとともに楽しく学ぶことができて感謝しています。メンバーに思われて初めてやる気も出てくるもの。今後も豊かな人間関係を築いて下さい。最後に、最後までの「サバニ」の意味を知らずいたへ。第1号で説明したのですが、仲間の丸木船です。研究旅行で聞いたあの書籍島吉さんがサバニ・ピース・コネクションという平和運動を繰り広げられています。(サバニ31号裏面) 国家・民族・文化・宗教・イデオロギーの枠を超えた一つの人間の強世の創造をめざして。 橋本直子